

## 未破裂脳動脈瘤

脳動脈瘤とは、血管の壁の弱い部分が血圧に負けて徐々に膨らんできたものです。破裂した場合、くも膜下出血となることが多いです。未破裂脳動脈瘤は、文字通り破裂していない動脈瘤ということになります。

全人口の3%、中年以降では5%の方に動脈瘤があるといわれています。

近年、脳ドックや他の症状で頭のMRI検査を受けた方に偶然見つかることが多くなってきました。

”脳に動脈瘤がある。”といわれて多くの方が不安でうつ傾向になると報告されています。経験豊富な専門医により適切な説明を受けることで患者様が冷静に適切な判断ができるようになることが重要です。

根拠のない不安を抱えて生活していくことはつらいことなので、是非脳神経外科に受診して説明を受けてください。

### 未破裂脳動脈瘤の診断を受けたら)

#### 1. 再検査

MRI検査は、偽陽性と言って実際には脳動脈瘤がないのに動脈瘤のように見えることがあります。専門医の診察を受けていただき、状況に合わせてMRIの再検査もしくは造影剤を使用したCT検査(3DCTA)や脳血管造影検査(カテーテル検査)によって正確な診断を行います。

#### 2. 定期画像検査・基礎疾患・生活習慣の管理

未破裂脳動脈瘤の破裂率は、人種、年齢、性別、動脈瘤の位置・大きさ、家族歴などで変化しますが、全体として年間1%程度の破裂率とされています。

大きさとしては、5mm以上が手術治療をお勧めしてもよいとされています。

実際に未破裂脳動脈瘤を指摘された方の中で手術適応のある方は半数以下です。

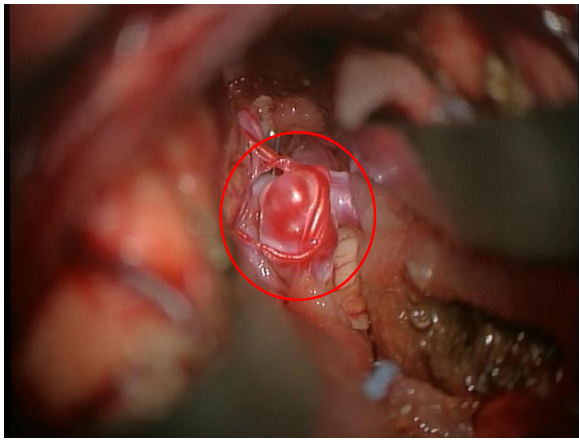
破裂にかかわる危険因子として改善できるものとしては、高血圧、喫煙、飲酒などがあげられます。内科的な治療、生活習慣の改善をしながら、

#### 3. 手術適応の場合

大きさが、5mm以上もしくは、若干小さくても特殊な事情のある方(家族歴、既往歴、動脈瘤の形状、徐々に大きくなる場合など)では外科的治療の適応があるとされています。治療には、1)開頭クリッピング術、2)血管内手術(コイルング術、ステント術)があります。

当院では、両方の治療の専門家がいますので患者様の希望や動脈瘤の部位や形状、他の血管との関係などから治療法の選択を行っています。

不明な点があればご質問ください。



[横浜旭中央総合病院](#)  
[脳神経外科](#)